

# 地域おこし協力隊通信

まもなく  
任期満了

## すずの音ホール・太田浩樹さんロングインタビュー



太田さんは松川村出身。名古屋で15年程働いていましたが、ご家族の高齢化などをきっかけに家族と一緒に暮らしたいという思いが強くなり、松川村へ戻ってきました。普段はすずの音ホールの運営やボランティアスタッフの事務局、講座の企画・運営など幅広い業務をこなしています。あたたかい人柄で村民から愛されている太田さんですが、もうすぐ地域おこし協力隊の任期3年が満了となり、現職を離れることとなります。太田さんに、3年間の活動を振り返ってお話をいただきました。

(聞き手：地域おこし協力隊 浅田)

浅田 太田さんにとって、この3年間はどんな3年でしたか。太田 楽しく、幸せに仕事が出来た3年間でした。すずの音ホールのスタッフは和気藹々としていて、いつもリラックスして仕事をする事ができました。また、決まった業務の中にも自分らしさを入れていったのがよかったですね。浅田 どんな風に自分らしさを出したんですか？

太田 私の仕事はボランティアの方と関わりが深いですが、すずの音ホール以外の場所も知ってほしいと思うようになりました。村のマイクロバスを利用して、色々な場所へ視察を企画しました。誰にも頼まれてないですが、中型免許を取得してしまいました(笑)。浅田 それはすごい(笑)。印象に残っている視察はありますか？

太田 遠方への視察はいくつも企画しましたが、一番印象深かったのは平成28年12月に発生した「糸魚川駅北大火」の復興視察。当時テレビで様子を見る事しかできませんでした。事だと思えなかったんです。いつもは一般募集をかけるに強い思い入れがあったのもあり一般にも参加者を募りました。

そうしたら想定以上の申し込みがあり、同じ気持ちの人がこんなにいるんだって嬉しかったです。

浅田 太田さんはいつも優しい笑顔で人に接しているのが印象的です。この企画も太田さんの人を思いやる気持ちがあったからこそ出てきたものなんですよ。3年間色んなことがあったと思いますが、特に印象的だった出来事を教えてください。

太田 サンタクロースの依頼が何件も来たことですね。

浅田 サンタクロースですか？  
太田 そうです。サンタクロースの衣装をしてイベントに参加するんです。盛り上げ役でもう、完全に見た目でお呼びがかかってますね(笑)。一度、仮装を済ませて保健センターに移動する際に北保育園の子どもたちに見つかって大騒ぎになったことがあります。

クリスマスの一週間前だったこともあって保育園の先生が「あわてんぼうのサンタクロースだね」と機転を利かせてくれたので助かりましたね(笑)。

浅田 微笑ましいエピソードですね。クリスマスパーティーの写真、どれも楽しそうです。子どもたちもサンタさんに会えて大喜びだったことでしょうか。太田さんは協力隊でもムードメーカーだったので、任期が終了してしまうのは寂しいと思います。

太田 松川村は私にとって地元ですし、任期終了後も松川村に住み続ける予定です。消防も地区のお祭りもこれまで通り参加するので、ただすずの音ホールには続いただけで地域とのつながりは続いています。今後も変わらずお付き合いいただければ幸いです。3月いっぱいはずすの音ホール勤務なので、イベントやコミニティ活動などすずの音ホールにたくさん遊びに来てください。

太田さん、お話しありがとうございました！

任期終了後も  
松川村で暮らし  
続ける予定  
です！



## 新規就農に向けて着実な歩み。高橋克弥さんの現状

高橋さんは食育推進事業・村の農産物のPRや販売に取り組んでいます。村の子どもたちが食育で使う体験農園の整備をしたり、授業では講師も務めています。村の子どもたちには「畑の先生」としてお馴染みです。そのかたわら、松川村ブランド米「鈴ひかり」や特産のリンゴの販促にも取り組み、就農に向けたノウハウや人脈を獲得してきました。

現在は主に穀類の栽培に取り組んでいます。穀類を選んだ理由は、長期保存がきくので販売計画を立てやすいこと、そして何より高橋さんが穀類が好きだから、とのこと。

精力的に農業に取り組んでいる高橋さんですが、着任当初は今ほど具体的なイメージはなかったといいます。しかし、松川村で活動する中で畑を貸してくれる人、農業機材を譲ってくれる人、さらには



有機米や大豆・小麦の栽培を教えてくれる師匠とも呼べるような人が見つかり、多くの人の応援の中で就農への道が見えてきました。

作物を作るだけでなく、販売まで手掛けることでその難しさを体感していると高橋さんは言います。「価格設定は本当に難しい。相場より高ければ売れないし、安ければ労力の分を取り戻せなくなってしまう。気持ちを含めた作物だからこそ、値付けは慎重にやらなければと思っています。試行錯誤の連続です。」

高橋さんは今後も協力隊の活動は続けますが、やるべきことが明確になるにつれ農業に専念したいという気持ちが強くなってきたため、協力隊の仕事は週4日程度にセーブして徐々に自分の農業



上：高橋さんが一部管理する畑。  
中：丹精込めて作った有機栽培の大豆。  
下：松川村特産の黒豆も栽培。

の方に軸足を移していくことを考えています。今は早く専業農家になりたい気持ちが高く、それに向けて頑張りたい、ということなんです。そのまま迷いはありません。

困っている事はないか聞いてみると、「今後農機具が増えていくので置き場をどうするか悩んでいます。小屋など使わせてくれる方がほしいですね。」

新規就農の道が見えてきた高橋さん。周囲の期待も大きいと思いますが、高橋さんのペースでぜひ夢を叶えてほしいですね。応援しています。(浅田)

## Instagram 更新中！

「協力隊通信、たまにしか出ないよね...」  
実はInstagramは比較的頻繁に更新しています。松川村の「インスタ映え」なスポット、コメントで教えてください。撮影に参ります！



ネタ提供  
お願いします♡

## 編集後記

今回の協力隊通信は、着任から期間が経過した隊員が松川村でどう生きていくのかにフォーカスして紙面を構成しました。着任してまだ半年の私ですが、先輩隊員を見ていると私もしっかりしなきゃ！と感じます。

さて、暦は2月に突入し、気温も少しは緩んでくるのかしら...と寒さと戦う九州人です(私、福岡出身です)。1月の終わりにインフルエンザにかかってしまい、お休みしている間にも差し入れをくれた松川村民の優しさに松川愛は深まるばかりです。冬の終わりまでもう一息がんばろう。今号も読んでいただきありがとうございます！(地域おこし協力隊 移住・定住担当 浅田)

お問い合わせはこちら♪  
松川村役場総務課 1万人復活特命係  
0261-62-3111 [tokumei@vill.matsukawa.nagano.jp](mailto:tokumei@vill.matsukawa.nagano.jp)